

文学通信



★刊行図書のご案内★

いままで刊行した78冊の本を紹介します

〒114-0001 東京都北区東十条1-18-1 1-101

電話 03-5939-9027 FAX 03-5939-9094

info@bungaku-report.com

<https://bungaku-report.com/>

卒論修論一口指南

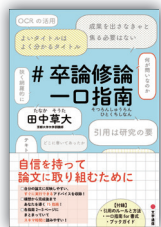
田中草大

2022
刊行

ISBN978-4-909658-78-4 C0000

四六判・並製・210 頁

定価：本体 1,600 円（税別）



論文に対する不安を緩和し、自信を持って論文に取り組むために。論文執筆の構想、調査、分析・執筆から完成後にいたるまで、すぐに実行できる & かならず実行しておきたい 75 のアドバイスを、わかりやすくあなたに伝えます。

これから論文に取り組もうとしている人、現在執筆のまっただなかにいる人、すべての学生におくる導きの書、誕生。

【本書の特徴】

▼自分の論文に反映しやすい、すぐに実行できるアドバイスを収録！▼構想から完成後にいたるまで、あなたを導く 75 指南！▼各指南 2～3 ページにまとまっていてスキマ時間に読みやすい！▼巻末付録として【無自覚の盗用（剽窃）を避けるために】[一口指南 for 書式] [ブックガイド] の 3 点を収録！

【すでにこの世の中には、論文書き方ハウツー本が驚くほどたくさんあります。論文の書き方についての体系的にまとまった知識は是非ともそうした本によって修得していただくとして、本書ではそれとは別に、より焦点を絞った、すぐに実行しやすいアドバイスをお届けしようという趣旨です。言わば、論文の書き方を学ぶ【副教材】として使っていただけたらと思っています。本書が、論文に対するあなたの不安を緩和し、自信を持って論文に取り組む助けとなれば何よりの幸いです。】……はじめにより

【目次】

はじめに 本書の構成と特色

その 1 構想編

指南 1 卒論・修論は教育課程の一環。「成果を出さなきゃ」と悩む必要はありません。**指南 2** 本腰を入れるのは就活が一段落してから ... は、危うい。**指南 3** 小論文のことは忘れよう。**指南 4** 書き方を知らずに論文に取りかかるのは、ルールを知らずにスポーツの試合に出るようなもの。《退場》したくなければ書き方を学ぼう。**指南 5** 論文書き方ハウツー本で大事なのは、「どれを読むか」ではなく「複数読む」こと。**指南 6** ハウツー本で主張が分かれている部分は、自分の先生の方針をチェックしてみよう。**指南 7** 実際の論文を読まなくては実際の論文は書けない。**指南 8** 「好きなテーマを選びなさい」は「自分の愛好するものをテーマにきなさい」という意味ではない。**指南 9** 迷ったら、大学でのこれまでの学びと繋がりを持つテーマを選ぼう。**指南 10** 「テーマを決める」とは「題材を決める」ことではなく「問いを決める」ことである。**指南 11** 答えられる問いでないと論文を終わらせられない。**指南 12** 大きな問題意識を背景に、小さなトピックを扱おう。**指南 13** 巨人の肩の《くぼみ》を探してみよう。**指南 14** メモする場所は一本化しよう。**指南 15** メモする時は「どこに書いてあったか」を必ず明記しよう。**指南 16** テーマの候補は複数用意しておこう。**指南 17** 走り出す前に相談しよう。**指南 18** 何をすればいいのか分からなくなったら「何が問いなのか」を自問しよう。ほかその 4 まで、全 75 指南。

その 2 調査編／その 3 分析・執筆編／その 4 完成編

付録その 1 無自覚の盗用（剽窃）を避けるためにー論文・レポートにおける引用のルールと方法ー付録その 2 一口指南 for 書式 付録 その 3 ブックガイド

職業としての大学人

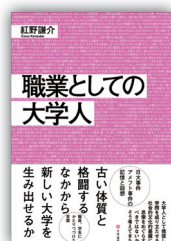
紅野謙介

2022
刊行

ISBN978-4-909658-77-7 C0037

四六判・並製・336頁

定価：本体1,800円（税別）



古い体質と格闘するなかから、どう新しい大学を生み出すのか。「大学改革」のかけ声ばかりが先行し、学問や教育が痩せ細るなか、大学への信頼はどのように取り戻せばいいか。その問いへつながる道筋に、近現代日本文学の研究者が、「大学人」として発信しつづけた言葉を配置する。

日本の大学行政の問題点をもっともチープなかたちで照らし出すにいたった、元理事や前理事長の逮捕・起訴といった、いわゆる日大事件。日本大学アメリカン・フットボール部の危険タックル事件。それらの渦中にいた著者が、できるかぎり事実をたがえることのないよう、メモと記憶にしたがって書き下ろした第1部「大学の現在、そして危機のなかの日常」。圧巻の93,000字。大学人はもとより、組織にいる人間には必読のテキストである。

第二部は、コロナ禍に遭遇した最初の半年間に出し続けた「学部長通信」を主に、第三部は、学生・保護者・卒業生に語った文章を収録。これらは教職員のみならず学生・保護者、卒業生にどのように事態を報告し、安心を与えられるか、考え抜かれた言葉である。「言葉なくして、安心も共感も説得もない。苦しいなかで言葉を届ける。それだけを考えて、メッセージを書き続けた」。大学を取り巻く社会で、学問への敬意が希薄になったいま、「新自由主義」によってもたらされた過剰な市場原理主義が大学を席

巻するいま、全教育関係者にとっての必読書。

【目次】

はじめに

1 大学の現在、そして危機のなかの日常

学校法人のガバナンスをめぐる臨床的研究—日本大学で何が起きていたのか／アメリカンフットボール部の危険タックル事件と大学の対応

2 教職員にかた—学部長通信

言葉をかけ続けることしかない—コロナ禍の大学から／文理学部の専任教職員のみなさまへ／授業開始の延期と準備について—学部長通信1号／会議形態の変更と新組織—学部長通信2号／遠隔授業のインフラ整備—学部長通信3号／学生をいかにサポートするか—学部長通信4号／成績評価と授業形態—学部長通信5号／授業開始直後の混乱とその対策—学部長通信6号／空疎な改革論にだまされない—学部長通信7号／地元の映画館を支援する—学部長通信8号／私の遠隔授業の経験—学部長通信9号／入試改革をどうするか—学部長通信10号／コロナ下における文化の違い—学部長通信11号／働くとはどういうことか—学部長通信12号／現実と接続する学問の可能性—学部長通信13号／留学生の存在が学部に変化をもたらす—学部長通信14号／新型コロナウイルスと比喩のレトリック—学部長通信15号／遠隔授業サポートまとめ—学部長通信16号／生と死のあわいで—学部長通信17号／理不尽な現実のなかで自分を笑う—学部長通信18号

3 学生・保護者・卒業生にかた—一思考の風穴をあける

境界に立って／祝辞—学位記伝達式／新入生へのメッセージ—開講式祝辞／経済状態の激変と授業料等納付金について—学生ならびに保護者のみなさまへ／ようやく前学期授業が始まります！／文理学部キャンパスの段階的開放に向けて ほか。

「文壇」は作られた

川端康成と伊藤整からたどる日本近現代文学史

尾形大

2022
刊行

ISBN978-4-909658-74-6 C0095

四六判・並製・256頁

定価：本体2,000円（税別）



明治期以降、ジャーナリズムの発達・拡張にともなって、文学者たちのなかに文壇という〈場〉が共同的に創り上げられていく。1920年代に文学上の出発を果たした川端康成と伊藤整。彼らは文壇をどのように意識し、参入し、そしてそれぞれの文学を生み出していったのだろうか。彼らが見据え研究し、距離を測りながらかわりつづけた文壇という場を明らかにしつつ描く、日本近現代文学史。

【1950年にチャタレイ裁判の被告人となった伊藤は、全文壇人を代表する立場で法廷に立ち、粘り強く闘い抜いた。また同じ時期に『日本文壇史』の連載を開始して文芸批評家、文学研究者としても活躍するようになる。60年代には日本近代文学館設立運動の中心として、文壇の世話役、かじ取り役として尽力している。そして伊藤が深くかかわっていく文壇の中心には、いつも川端康成がありつづけた。伊藤と川端の文学上の関係性は1930年前後を起点としながら、その後40年近い歳月をかけてゆるやかにかかわり合い、からみ合いながら紡がれていく。】……はじめにより

【目次】

はじめに

第1章 「文壇」は作られた

1 「文壇」という言葉の定義／2 『日本文壇史』のなかの文壇像／3 歴史の作られ方—文学史と文壇史／4 文壇へ参入するには／5 戦後文壇の中心：川端康成と伊藤整／6 ノーベル文学賞受賞と川端の戸惑い／7 川端と伊藤が向き合った文壇

第2章 文壇への参入と戦略—『感情装飾』と『雪明りの路』の作者たち

1 それぞれの文壇参入／2 川端の〈孤児意識〉／3 伊藤の〈捨児意識〉／4 詩壇から評価される伊藤／5 同人雑誌『椎の木』に集った文人たち／6 梶井基次郎との出会い、そして川端への執筆依頼

第3章 雑誌を創刊する伊藤—『文藝春秋』をモデルとした『文藝レビュー』

1 上京と瀬沼茂樹との出会い／2 モデルとしての『文藝春秋』／3 文学者とカネの問題／4 詩から小説への移行／5 海外文学の窓口／6 文壇参入に足掻く伊藤

第4章 フロイトの精神分析学とジョイス『ユリシイズ』の受容

1 フロイトとジョイスの輸入／2 創作への影響／3 川端による絶賛と伊藤の行き詰まり／4 「無意識」を描く／5 『ユリシイズ』共訳と方法としての「意識の流れ」／6 類似する物語構造／7 海外文学の受容

第5章 文学史の構築と「心理小説」の発見／第6章 拡張される「純文学」概念—「父母への手紙」と「生物祭」／第7章 プロレタリア文学に向き合う—小林多喜二の死から「幽鬼の街」へ／第8章 作家活動の裏事情—大学講師と代作問題／第9章 戦争と文壇—戦時下の「私」の行方／第10章 文壇の戦争責任と再建—『鳴海仙吉』と『雪国』／第11章 文壇の団結と再出発—チャタレイ事件と『舞姫』／第12章 日本近代文学館設立からノーベル文学賞受賞へ おわりに 関連年表

無数のひとりが紡ぐ歴史

日記文化から近現代日本を照射する

田中祐介編

ISBN978-4-909658-75-3 C0021
A5判・並製・カバー装・456頁
定価：本体2,800円（税別）

2022
刊行



人間の書くことの歴史と文化を考え、過去を生きた、無数の人々が紡いだ歴史の意味を問う。過去を生きた未知の人々の小さな歴史に向きあい、書かれた言葉の向こう側に想像力を働かせながら、より大きな歴史との異なりや繋がりを実践的に検証していく。本来ならば絶対に関わらない他者の日記を時代を超えて読むことには、一体どういう意味があるのか。書かれた内容を鵜呑みにできず、一筋縄ではいかない日記という史料にいかに向き合うべきなのか。モノ・行為・史料の視座から掘り下げ、人はなぜ日記を綴るのかという根源的な問いへの向きあい方をも考えていく、最先端の「日記文化」研究。執筆は、田中祐介／柿本真代／河内聡子／鬼頭篤史／志良堂正史／竹内瑞穂／堤ひろゆき／徳山倫子／大木志門／西田昌之／大岡響子／大川史織／吉見義明／山田鮎美／島利栄子。【日記は読み手に都合の良い論証の材料ではなく、未知の他者との出会いであり、新鮮な問いが様々に生まれる磁場である。書き手の人格と人生に敬意を払いながら、紙面に留められた言葉のひとつひとつに向きあい、予見を排して慎重に読み解く。そうすることで過去の言葉は再び生彩を放ち、現在の読者の言葉と思考を揺るがし、再考を促すであろう。すなわち日記の読み解きを通じて出会うのは、社会的属性や特定の歴史経験に還元され得ない個別的な他者、換言すれば無数のひとりにほかならない。】

……「総論 「日記文化」を掘り下げ、歴史を照射する」より

【目次】 総論 「日記文化」を掘り下げ、歴史を照射する（田中祐介）／Ⅰ モノとしての日記・家計簿・手帳の文化史／1章 夏休みの日記の成立と展開―「夏季休暇日誌」から「なつやすみの友」へ（柿本真代）／2章 家計簿と女性の近代―モノとしての成立と展開に見る（河内聡子）／3章 昭和戦後期のサラリーマンの手帳文化―一九六〇年代末から一九八〇年代の手帳をめぐる言説を中心に（鬼頭篤史）／4章 手帳類プロジェクトの設計と実践―私的なプレイヤーのためのプラットフォームへ向けて（志良堂正史）／Ⅱ 読者を意識した自己の真実性／5章 自己を書き綴り、自己を「調律」する―中村古峽史料群の「日記」「相談書簡」「療養日誌」（竹内瑞穂）／6章 戦場に行かない兵士としての経験を綴る―大正期師範学校卒業教員の「六週間現役兵日誌」における伝えるべき軍隊像の模索（堤ひろゆき）／7章 飢える戦場の自己を綴りぬく―佐藤富五郎日記における書くことの意味（田中祐介）／8章 昭和初期農村の「模範処女」たちの自己語り―県農会立女学校の生徒・卒業生作文に見る規範意識と「少女文化」（徳山倫子）／Ⅲ 自己を語り直す―日記・私小説・自伝・回想録／9章 水上勉文学における自己語りの諸相―「私小説」のプロトタイプ的理解の一例として（大木志門）／10章 物語化する自己記述―漆芸家生駒弘のタイ滞在日記と自伝の比較から（西田昌之）／11章 芦田恵之助の回想録と日記の比較から見る台湾表象と「国語」教育観（大岡響子）／Ⅳ 無数のひとりに出会う／12章 映画『タリナイ』上映から一年（講演記録）（大川史織）／13章―1 吉見義明氏インタビュー（聞き手▼田中祐介・大川史織）／13章―2 戦争体験から高度成長期体験へ―「青木祥子日記」の検討から（吉見義明）／14章 特別展示 花の日記に私注をつける（山田鮎美）／15章 個人の記録を未来へ継承する（対談記録）（島利栄子・志良堂正史・田中祐介（司会））

思い出のとしまえん

練馬区立石神井公園ふるさと文化館編
小宮佐知子・内田 弘・小林 克著

ISBN978-4-909658-76-0 C0076
B5判・並製・カバー装・196頁（フルカラー）
定価：本体1,900円（税別）

2022
刊行

としまえん、94年の卒業アルバム！

大正15（1926）年に、現在の練馬区向山で開園した遊園地「としまえん」は、令和2（2020）年8月31日、多くの人々に惜しまれつつ94年の歴史に幕を閉じました。

としまえんは、世界初の流れるプールや、日本初の本格的ダークライド「アフリカ館」の開業、機械遺産となった世界最古級の回転木馬「カルセルエルドラド」の移設、斬新な広告展開など、常に時代の最先端をいき、遊園地の楽しさを多くの人々に発信してきました。

本書はとしまえんのあゆみを、練馬区立石神井公園ふるさと文化館で開催された企画展「思い出のとしまえん」をベースに、ポスターや写真など、さまざまな資料からたどります。

掲載図版400点以上、一世を風靡したポスター40点以上掲載。としまえ最後の事業運営部長内田弘氏の講演会「乗り物から振り返る『としまえん』」も収録。この講演は遊園地などの娯楽産業に携わる人には必読の文章です。小宮佐知子氏による「遊園地の歴史にみる豊島園の開園」では、遊園地の成立事情やその実態をつぶさに描き出します。としまえんを愛するすべての人に。遊園地とは何かということを考えたいすべての人に。

【目次】序章 としまえんのはじまり／1 城の跡地に生まれた遊

園地／第1章 戦前のとしまえん／①開園初期のとしまえん／1 全面開園時の様子／2 絵葉書からみる開園初期の園内／3 週末の小旅行先へ―大人も子どもも／4 駅名にもなり高まる存在感／②昭和10年頃からのとしまえん／1 揺れる遊園地の立てなおし／2 大きな宣伝も遊園地で／3 ついに経営は武蔵野鉄道株式会社へ／第2章 戦後のとしまえん／①遊園地の最先端をいく／1 華やかさを取り戻して／2 戦後の花形ランドマーク／3 映画づくりから始まる昆虫館／4 永遠の花形マシン―サイクロン／5 火花散るぶつかり合い―オート・スクーター／6 スリルを求める時代へ／7 突進するゾウ、宙を舞うヒョウ―アドベンチャーゾーンアフリカ／8 旅する夢のメリーゴーランド―カルセルエルドラド／9 飛び出す日本のおぼけ―ミステリーゾーン&お化け屋敷／10 跳んだりぶらさがったり―フィールドアスレチック／11 愛すべき絶叫マシンたち―コークスクリュー・シャトルループ・フライングパイレーツ・トップスピン／12 夏を独占する遊園地の誕生まで―としまえんプール／13 としまえんのハイドロポリスは〜♪／②新たな「としまえん」らしさへ／1 練馬区とみんなの遊園地／2 すべての季節を園内で／3 子どもでもスリルを楽しみたい／第3章 としまえんの広告は面白い／1984～2020（No.1～47）／広告製作秘話 by 内田弘／終章 閉園と思いついた／1 ご来園ありがとうございました／2 としまえんの思い出たちは現在も／もっと知りたい「としまえん」／1 内田弘講演会 乗り物から振り返る「としまえん」／2 遊園地の歴史にみる豊島園の開園（小宮佐知子）／索引



日本学の教科書

Handbook for Japanese Studies

伴野 文亮・茂木 謙之介編

ISBN978-4-909658-73-9 C0036

四六判・並製・208 頁

定価：本体 1,800 円（税別）

2022
刊行

これから「日本」を捉え直す視座をどう獲得していくのか。「日本」を考えるうえで、既存の取り組みにとどまらない、新たな展開を考えるために。日本学の「方法」と「実践」を提示した、初学者をはじめとした日本学に関心を持つすべての人への「導き」の書。グローバル・ヒストリーや文学研究、表象文化論や宗教研究といった人文科学から、「キャラクタ」研究や東北経済学、家族社会学といった社会科学まで、多種多様な学問領域の先鋭的な研究を結集し、さらに〈東北〉という〈場〉を問題意識として共有した新しい日本学の取り組みを示す。

執筆は、茂木謙之介、伴野文亮、クリストファー・クレイグ、佐藤弘夫、高橋章則、大野晃嗣、仁平政人、荒井美咲、君島彩子、オリオン・クラウタウ、雲然祥子、田中重人

【現代日本学は、安易な日本賛美の学問ではなく、「日本」というフィールドの実態を、複眼的視座から構造的に把握する学問でなくてはならない。現代日本学が健全な学問として存立し続けるためにも、現代日本学の実践に従事するすべての人は、国際と学際という2つの「際」に徹底的にこだわり、かつホンモノの資料をもとに研究を立ち上げるという緊張感を、絶えず持ち続けるべきである。現代日本学の挑戦は、はじまったばかりだ。】……おわりに（伴野文亮）より

【目次】

はじめに（茂木謙之介）／第1部 日本学の現状／第1章 海外における日本学の来歴（クリストファー・クレイグ）／column 「国際日本学」のゆくえ（佐藤弘夫）／第2章 日本学の「場」をつくる—東北大学を事例に—（高橋章則）／column 日本学国際共同大学院プログラムと「日本学」（大野晃嗣）／第2部 現代日本学の実践／第3章 現代日本学の実践1 [グローバル・ヒストリー] 日本学のための歴史学的手法とその実践（クリストファー・クレイグ）／第4章 現代日本学の実践2 [地域文化史] 「地域文化史」の視点から考える現代日本学—俳諧の「旧派」の文化的実践を手がかりに—（伴野文亮）／column 現代日本文学へのアプローチ—若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』を例に—（仁平政人）／第5章 現代日本学の実践3 [表象文化論] 表象文化研究から日本学を考える—芥見下々『呪術廻戦』における〈東北〉イメージを導きに—（茂木謙之介）／column 現代日本の「キャラ（クター）」文化（荒井美咲）／第6章 現代日本学の実践4 [宗教学] 仏像から考える日本の「宗教」と「美術」（君島彩子）／column 宗教研究からみた日本学（オリオン・クラウタウ）／第7章 現代日本学の実践5 [経済学] 「東北」の産業・経済から見る日本（雲然祥子）／第8章 現代日本学の実践6 [社会学] 家族の変化と生活保障システム（田中重人）／おわりに（伴野文亮） 執筆者プロフィール



未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録

堀忠雄『五福堂開拓団十年記』を読む

黒澤 勉・小松靖彦編

ISBN978-4-909658-71-5 C0036

四六判・並製・252 頁

定価：本体 2,400 円（税別）

2022
刊行

「今さら満洲開拓の是非論など何の値もしないが、その開拓者の生死とそれに関する事実を明らかにすることは、日本人として日本の歴史を動かしてしまった者として、当然明らかにしなければならないと言うことが私の責任であるのだ」…… 第三部・「開拓忌三十三年」（堀忠雄）より

ほとんどの開拓団が悲惨な逃避行を体験することになったが、五福堂開拓団は現地住民の襲撃にあったものの、致命的な被害を受けることはなかった。それはなぜだったのか——。

満蒙開拓団の悲惨な歴史の中にあって、異彩を放つ移民団・五福堂開拓団の団長・堀忠雄の未刊の著作『五福堂開拓団十年記』をはじめで紹介する書。

五福堂開拓団は、ほとんどが未墾の土地に入植し、一部の既墾地については、現地住民がそのまま耕作を続けることを認め、現地住民たちとの間に良好な関係を築いた。それは堀の「日本人も中国人も農民は農民同士」という方針による。敗戦後、堀団長は、団員全員が生き抜くことを指針とした。ソ連軍による女性の供出要求もはっきりと拒否した。

常に理性的行動をとった堀の内側にあった感情のゆらぎの記録として、また、敗戦以前の五福堂開拓団の暮らしの記録として極めて貴重な書。堀は本書執筆の三年後の一九七二年、すべての公務

を辞し（堀は敗戦後岩手県で開拓の指導に当たった）、かつての団員の訪問を開始した。『五福堂開拓団十年記』は、満蒙開拓団の歴史の真実を明らかにするための旅に先立ち、堀自身の心の整理を試みたものであった。

悲劇的な満蒙開拓団の歴史の中に、なおも存在していた人間の「可能性」を伝える新資料。「唄う村民にしよう。歌う村を創ろう」と、宮澤賢治に通ずる理想を掲げて開拓に取り組んだ堀の考え方と行動の背後から、満蒙開拓団の歴史にもう一歩近づくことができる。

【目次】

はしがき—満蒙開拓団の悲劇の中の人間の「可能性」（小松靖彦） 凡例

第一部 堀忠雄の生涯

拓魂—堀忠雄の生涯（黒澤 勉）

第二部 『五福堂開拓団十年記』を読む

拓務省第六次 五福堂開拓団十年記（巻一）（元団長 堀 忠雄）

第三部 五福堂開拓団のその後

私は終戦にこう対処した／満洲開拓団受難を考える／開拓忌三十三年（堀 忠雄）

解説 堀忠雄『五福堂開拓団十年記』について—未墾地に入植した満蒙開拓団長の心の記録—（小松靖彦）

- 一 満蒙開拓団について
- 二 堀忠雄と『五福堂開拓団十年記』
- 三 堀忠雄の満洲農業移民についての考え
- 四 『五福堂開拓団十年記』の注目される記事



論考 日本中世史

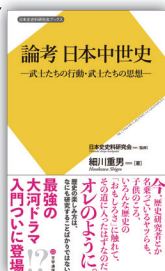
武士たちの行動・武士たちの思想

細川重男

日本史料研究会ブックス 007
ISBN978-4-909658-70-8 C0221
新書判・並製・278 頁
定価：本体 1,800 円（税別）

2刷

2022
刊行



今、歴史研究者とか名乗っているヤツらも、子供のころ、いろんな歴史の「おもしろさ」に触れて、その道に入ったはずなのだ。オレのように——。そして歴史の楽しみ方は、なにも研究することばかりではない。小説・エッセーを書く、マンガやイラストを描く、ゲームをやる、あるいは作る。そして我が家で子供たちに昔の人の物語を語り聞かせる。それぞれの人が自分のやり方で歴史を楽しんでほしい——。

中世史研究者、歴史愛好家、すべての歴史好きに贈る、前代未聞で形容しがたい、しかし抜群に面白い歴史読本。

本書で歴史がもっと好きになることは請け合いです！

【「歴史は少し高尚な娯楽」と言うたのは亀田俊和氏であるが、これを聞いた時、我が意を得たと思った。実際、『吾妻鏡』や古文書を含め、「ナンじゃ、こりゃ？『少年ジャンプ』より、おもしろえー！」と笑ってしまうモノは、ケッコーある。そして、ゲラ！ゲラ！笑うのだけが、「おもしろい」のではないのである。涙がこぼれるほどに感動するコトも「おもしろい」なのである。今、歴史研究者とか名乗っているヤツらも、子供のころ、いろんな歴史の「おもしろさ」に触れて、その道に入ったはずなのだ。オレのように。それなのに、大学教員・大学院生の中には、「歴史研究

をしている」だけで自分を「偉い」と思い込み、一般の歴史愛好者を見下しているヤツらがいる。露骨に態度に示すヤツもいれば、外面はフレンドリーな態度をとりながら腹の中真っ黒というヤツもいる。いずれにしろ、こーゆーヤツらの研究に限って、たいしたことない。バツ！カ！じゃなからうか！……あとがきより】

【目次】はじめに一起請 本書の事／第一話 黒幕（フィクサー）の懐古／第二話 道元と北条時頼／第三話 『延慶三年記』のこと／第四話 Who is 大井入道？／第五話 降臨の時／第六話 断指／第七話 莫若（しくはなし）／第八話 家督／第九話 文士／第十話 勇士／第十一話 さだたか／第十二話 ナンのヒネリも無い書名／第十三話 ある軍記物の幻影／第十四話 「茶筌1コくださいな」／第十五話 言われてるほど、ムチャでもない／第十六話 「海南行」／第十七話 太刀、あれこれ／第十八話 発表講座／第十九話 『尊卑分脈』の使い方／第二十話 替え歌「ジョーキュー（檄！鎌倉幕府軍）」／第二十一話 替え歌「流刑地の春～佐殿のテーマ」／第二十二話 替え歌「オキノシマ」／第二十三話 下総の子犬の話／第二十四話 佐々木さんはお怒りです。／第二十五話 替え歌「しょーぐんっていいな」／第二十六話 ムカつく北条氏をブツブツから、みんな、集まれ！／第二十七話 その男たち、凶暴につき／第二十八話 替え歌「南帝の詩」／第二十九話 論旨をください／第三十話 狼たちの夢／第三十一話 武士の名前はなぜ、うざい？／第三十二話 寿限無とトーテムポール／第三十三話 歴史人物キャッチ・コピー／第三十四話 省略し過ぎ！／第三十五話 童名と仮名／第三十六話 西念ダッシュ／第三十七話 替え歌「黒雪賦一梶原景時のテーマ」／第三十八話 替え歌「東国武士団の歌」／第三十九話 御内人と得宗被官／第四十話 「暴れっぱなし」の七十九年／第四十一話 替え歌「ぶっちぎり Rock'n Roll ～長沼沼政のテーマ～」／ほか

地域歴史文化継承ガイドブック

付・全国資料ネット総覧

人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」監修

天野真志・後藤 真編

ISBN978-4-909658-72-2 C0021
A5 判・並製・248 頁・一部カラー
定価：本体 1,600 円（税別）

2刷

2022
刊行

地域の歴史や文化の、何をどう守り伝えていけばいいのか。最新の研究と実践からその方法を紹介する入門書。自治体、博物館、文書館、図書館、また地域資料の災害対策、保存・継承に興味のある方必携！本書により、多くの方々が地域の歴史文化に関心を深め、新たな地域の担い手として活躍できるようになるよう、期待を込めて刊行いたします。

第Ⅰ部では、歴史文化資料の基礎知識として、古文書（記録資料）、民具、美術資料、公文書、震災資料など、それぞれの具体例、特徴を上げ、基礎知識がわかるようにしました。また保存・活用方法として、デジタルデータ・紙製品・木製品を取りあげます。また資料保存の担い手と技術をつなぐ、ワークショップの方法なども取りあげました。

第Ⅱ部では、地域を主体として資料保存活動を推進する「資料ネット」について紹介。1995 年阪神・淡路大震災を契機に誕生した「資料ネット」は、その後各地で自然災害が多発するなか、全国に拡大しました。現在活動している団体の概要を、それぞれの団体自身により紹介し、読者が地域を主体とした持続的な取り組みを実践するネットワークとつながることができるようにしました。

執筆は、天野真志、後藤 真、平川 南、加藤明恵、川邊咲子、

安田容子、松岡弘之、吉川圭太、山口悟史、岡田 靖、永村 真、川内淳史、佐藤 琴、阿部浩一、添田 仁、作間亮哉、高山慶子、金井忠夫、長谷川明則、鈴木 凜、宇野淳子、西村慎太郎、原 直史、白水 智、山本英二、藤谷 彰、堀田慎一郎、小野塚航一、吉原大志、藤 隆宏、橋本唯子、小林准士、石田雅春、下向井祐子、伊藤 実、町田 哲、胡 光、楠瀬慶太、今村直樹、山内利秋、佐藤宏之。

【目次】

ご挨拶●平川 南／はじめに一地域で資料を保存・継承するには●天野真志／第Ⅰ部 歴史文化資料の基礎知識／①地域社会と歴史文化資料／地域社会と歴史文化●平川 南／地域と資料保存●天野真志／②具体例と特徴／古文書（記録資料）●加藤明恵／民具●川邊咲子／美術資料●安田容子／公文書●松岡弘之／震災資料●吉川圭太／③保存・活用方法／歴史資料保全のためのデジタルデータ●後藤 真／紙製地域資料を遺す技術——手当てとその考え方●山口悟史／地域に埋没する木製文化遺産●岡田 靖／資料保存の担い手と技術をつなぐ一被災資料救済ワークショップの展開●天野真志／第Ⅱ部 全国資料ネット総覧／「資料ネット」活動の広がり●天野真志／全国史料ネット研究交流集会●川内淳史／東北／関東／中部／近畿／中国／四国／九州／おわりに●永村 真／執筆者一覧／



Butoh 入門

肉体を翻訳する

大野ロベルト・相原朋枝編

ISBN978-4-909658-68-5 C0073

A5 判・並製・352 頁

定価：本体 2,200 円（税別）

2021
刊行

舞踏という迷宮を、旅するためのガイドブック。「舞踏って何だろう」と漠然と思っているひとにも、専門的に舞踏を研究しているひとにも最適な本。踊りとは、ダンスとは、そして、世界中で通じる B u t o h とは何か。「言葉では表現できない」という言葉であらわされる B u t o h について、言葉で立体的に捉えようと何が見えてくるのか。果たして肉体を駆使用する言語としての舞踏は、どのような言葉から成り立っているのか。その肉体を翻訳します。

舞踏をこれまであまり意識しなかったひとたち、舞踏よりもむしろ B u t o h という国際的なものとしてそれに会ったひとたちに向けた、ありそうでなかった入門書。コラムではそれぞれの視点から舞踏の歴史や国際交流について紹介、代表的な舞踏家を列挙した「舞踏『図』譜」や、舞踏に関する参考文献を集めた「舞踏『書』譜」、それに年表「舞踏『年』譜」も付す。この一冊に舞踏について考える材料が詰まっています。

執筆は大野ロベルト、相原朋枝、酒向治子、ブルース・ベアード、ローズマリー・キャンデラリオ、横尾咲子、関典子、塚田美紀。【私が本書の編者となっているのは、奇をてらったのことはないのである。「媒がなければ舞踏を身近に感じることができない」地点から出発したという意味において、私は執筆者の誰よりも読

者一般に近い立場にある。現代における舞踏の受容のあり方を表現する一人として、「私の場合」を出発点に置いた結果、このような書物が出来上がった。むろん、その出発点から一步を踏み出し、舞踏というものを立体的に捉えるためには、共編者と各執筆者の専門的な知見と経験が不可欠であった。

私自身、本書の各章に手を引かれて、ようやく舞踏の森を抜けたばかりである。ぜひ読者にも、それぞれの経路で、この迷宮に踏み込んでいただければ幸いである。】……あとがきより

【目次】

舞踏「図」譜／序にかえて―舞踏家がバサバサと骨ばった腕を上げてくる／第1章 綱渡りする死体―日本語の身体性（大野ロベルト）／第2章 肉体と観念の三重奏―土方巽・澁澤龍彦・三島由紀夫（大野ロベルト）／第3章 舞踏の技法、舞踏の身体―大駱駝艦と野口操（相原朋枝）／[Column] カニングハムと土方巽―アンチモダニズムの心身（酒向治子）／第4章 西洋的欲望の迷宮に踊る―日本国外での土方巽（ブルース・ベアード）（大野ロベルト訳）／第5章 舞踏百景―グローバルでローカルなダンス（ローズマリー・キャンデラリオ）（大野ロベルト訳）／[Column] メキシコ人の血に流れる舞踏熱（横尾咲子）／第6章 舞踏とコンテンツ―和栗由紀夫との協働を超えて（関典子）／第7章 言葉で踊る―一九九五年の大野一雄（相原朋枝）／[Column] 美術館と身体表現―世田谷美術館の歩みを中心に（塚田美紀）／舞踏「書」譜 舞踏「年」譜



REKIHAKU 特集・ファッション×博物館

国立歴史民俗博物館・澤田和人・吉村郊子編

ISBN978-4-909658-69-2 C0021

A5 変判・並製・112 頁・フルカラー

定価：本体 1,091 円（税別）

発行 国立歴史民俗博物館

発売・編集協力 文学通信

2022
刊行

国立歴史民俗博物館発！ 歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』！ いまという時代を生きるのに必要な、最先端でもしろい歴史と文化に関する研究の成果をわかりやすく伝えます。本書の特集は「ファッション×博物館」。

博物館は知識を得るとともに、感性を磨く場所でもある――。「ファッション」を鍵として博物館を気軽に楽しむ方法を提案いたします。

第1部は野村正治郎のコレクションをはじめとする、歴博所蔵の着物を中心とした染織資料を紹介。実は歴博は着物の収集を継続的に行っている有数の博物館である。「デザインの醍醐味」「匠の技」「時代の象徴」「珍品稀品」「由緒ある着物」「絵師・画家と着物」「着物をめぐるドラマ」とテーマを分け紹介していく。第2部では所蔵品をファッションと絡めて紹介。独自の視点で資料を観察する、あるいは、見たい資料を選択して自分だけのストーリーをつくって観覧することをうながします。博物館を楽しむ入口としても、本特集「ファッション×博物館」は作られています。

好評連載・鷹取ゆう「ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館」では「番外編①着物展示の裏側」など、ファッションに関するテーマを集

めました。盛りだくさんで歴史と文化への好奇心をひらいていきます。

歴史や文化に興味のある人はもちろん、そうではなかった人にもささる本。それが『REKIHAKU』です。年3回刊行！

【目次】

第1部 国立歴史民俗博物館と着物／デザインの醍醐味／1 雛形本と一致／2 色違いの着物／3 カラスが模様／4 左右別々／5 まるでベルサイユ／6 際立つ個性／匠の技／7 優れたパッチワーク／8 まさに職人技／9 木綿の着物の極致／時代の象徴／10 近代の製品の手本／11 東京セレブのおしゃれ／珍品稀品／12 様式化前の古例／13 型染の珍品／14 西洋人好み／15 アットウシの珍品／由緒ある着物／16 後水尾天皇第三皇女昭子内親王御着用／17 西本願寺伝来／18 宮家の着物／絵師・画家と着物／19 酒井抱一が描く／20 呉春の絵／21 北野恒富の絵のモデル／22 山川秀峰の絵のモデル／着物をめぐるドラマ／23 太鼓方の菩提のために／24 百姓一揆大山騒動の首謀者が寄進／25 着物の結婚式／ファッションをもっとたのしみたい人へ おすすめスポット＆ブック／ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館番外編①着物展示の裏側 鷹取ゆう／第2部 博物館でファッションを楽しむ ほか



その他の刊行図書 2022.05 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

	刊行年	ISBN	本体価格
東アジア文化講座・全4冊 [完結]			
はじめに交流ありき—東アジアの文化と異文化交流●染谷智幸編	2021年2月	978-4-909658-44-9	2800円
漢字を使った文化はどう広がっていたのか—東アジアの漢字漢文文化圏●金文京編	2021年2月	978-4-909658-45-6	2800円
東アジアに共有される文学世界—東アジアの文学圏●小峯和明編	2021年2月	978-4-909658-46-3	2800円
東アジアの自然観—東アジアの環境と風俗●ハルオ・シラネ編	2021年2月	978-4-909658-47-0	2800円
デジタル・ヒューマニティーズ関連書			
歴史情報学の教科書—歴史のデータが世界をひらく●後藤 真・橋本雄太編 2刷	2019年4月	978-4-909658-12-8	1900円
ネット文化資源の読み方・作り方—図書館・自治体・研究者必携ガイド●岡田一祐 2刷	2019年7月	978-4-909658-14-2	2400円
デジタル学術空間の作り方—仏教学から提起する次世代人文学のモデル●下田正弘・永崎研宣編	2019年12月	978-4-909658-19-7	2800円
欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識●一般財団法人人文情報学研究所監修	2021年7月	978-4-909658-58-6	2800円
国語教育関連書			
なぜ古典を勉強するのか—近代を古典で読み解くために●前田雅之 3刷	2018年6月	978-4-909658-00-5	3200円
国語の授業の作り方—はじめての授業マニュアル●古田尚行 3刷	2018年7月	978-4-909658-01-2	2700円
古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。—●勝又基編 2刷	2019年9月	978-4-909658-16-6	1800円
古典教育と古典文学研究を架橋する—国語科教員の古文教材化の手順●井浪真吾	2020年3月	978-4-909658-26-5	2700円
高校に古典は本当に必要なのか—高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ●長谷川凜ほか	2021年5月	978-4-909658-36-4	1800円
文学・歴史・思想			
三島由紀夫は—〇代をどう生きたか—あの結末をもたらしたものに●西法太郎	2018年11月	978-4-909658-02-9	3200円
全訳 男色大鑑〈武士編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2018年12月	978-4-909658-03-6	1800円
全訳 男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2019年10月	978-4-909658-04-3	1800円
紙が語る幕末出版史—『開版指針』から解き明かす●白戸 満喜子・	2018年12月	978-4-909658-05-0	9500円
二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎●ビュールク トーヴェ	2019年2月	978-4-909658-09-8	6000円
江戸の子どもの絵本—三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル!●叢の会編	2019年4月	978-4-909658-10-4	1000円
〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典●長島弘明編	2019年5月	978-4-909658-13-5	3200円
真山青果とは何者か?●飯倉洋一・日置貴之ほか編	2019年7月	978-4-909658-15-9	2800円
注釈・考証・読解の方法—国語国文学的思考●白石良夫	2019年11月	978-4-909658-17-3	3200円
草の根歴史学の未来をどう作るか—これからの地域史研究のために●黒田智・吉岡由哲編	2020年1月	978-4-909658-18-0	2700円
薩琉軍記論—架空の琉球侵略物語はなぜ必要とされたのか●目黒将史	2019年12月	978-4-909658-20-3	15000円
怪異をつくる—日本近世怪異文化史●木場貴俊	2020年3月	978-4-909658-22-7	2800円
江戸初期の香文化—香がつなぐ文化ネットワーク●堀口悟・鈴木健夫・村田真知子編	2020年2月	978-4-909658-23-4	4500円
近世前期江戸出版文化史●速水香織	2020年2月	978-4-909658-24-1	8800円
江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽●前島美保	2020年2月	978-4-909658-25-8	12000円
「国文学」の批判的考察—江戸のテキストから古典を考え直す●空井伸一	2020年3月	978-4-909658-27-2	11500円
好古趣味の歴史—江戸東京からたどる●小林ふみ子・中丸宣明編著	2020年6月	978-4-909658-29-6	2800円
城壁●榛葉英治・和田敦彦	2020年6月	978-4-909658-30-2	2400円
信長徹底解説—ここまでわかった本当の姿●堀新・井上泰至編 2刷	2020年7月	978-4-909658-31-9	2700円
杞憂に終わる連句入門●鈴木千恵子	2020年6月	978-4-909658-32-6	1500円

読書の歴史を問う―書物と読者の近代 改訂増補版●和田敦彦	2020年8月	978-4-909658-34-0	1900円
説話文学研究の最前線―説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録●説話文学会編	2020年9月	978-4-909658-35-7	3000円
二十四節気で読みとく 漢詩●古川末喜 2刷	2020年10月	978-4-909658-37-1	2800円
古典の未来学―Projecting Classicism ●荒木浩編	2020年10月	978-4-909658-39-5	8000円
書誌学入門ノベル! 書医あづさの手控〈クロニクル〉●白戸満喜子	2020年12月	978-4-909658-41-8	1800円
王朝物語の表現機構―解釈の自動化への抵抗●星山 健	2021年1月	978-4-909658-42-5	6000円
近代平仮名体系の成立―明治期読本と平仮名字体意識●岡田一祐	2021年2月	978-4-909658-48-7	7000円
虚学のすすめ―基礎学の言い分●白石良夫	2021年2月	978-4-909658-49-4	1900円
自由律俳句と詩人の俳句●樽見 博	2021年3月	978-4-909658-50-0	2700円
『阿毘達磨集論』の伝承―インドからチベットへ、そして過去から未来へ●高橋晃一・根本裕史編	2021年3月	978-4-909658-51-7	2400円
これからの古典の伝え方―西鶴『男色大鑑』から考える●畑中千晶	2021年3月	978-4-909658-53-1	1900円
軍記物語と合戦の心性●佐伯真一	2021年4月	978-4-909658-54-8	10000円
言いなりにならない江戸の百姓たち―「幸谷村酒井家文書」から読み解く●渡辺尚志	2021年6月	978-4-909658-56-2	1500円
玉藻前アンソロジー―殺之巻●朝里 樹編著	2021年7月	978-4-909658-59-3	1900円
『奥の細道』の再構築●井口洋	2021年11月	978-4-909658-62-3	11000円
たたかう講談師―二代目松林伯円の幕末・明治●目時美穂	2021年11月	978-4-909658-66-1	2500円
読まなければならぬ―いまから古典を〈読む〉ために●木越治・丸井貴史編	2021年11月	978-4-909658-67-8	1900円
日本史史料研究会ボックス			
新徴組の真実にせまる―最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組●西脇 康	2018年12月	978-4-909658-06-7	1300円
新 神風と悪党の世紀―神国日本の舞台裏●海津 一郎	2019年1月	978-4-909658-07-4	1200円
六波羅探題 研究の軌跡―研究史ハンドブック●久保田和彦	2020年1月	978-4-909658-21-0	1200円
ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち―天皇制度は存亡の危機だったのか? 新装版●神田裕理編	2020年7月	978-4-909658-33-3	1350円
戦国時代と一向一揆●竹間芳明	2021年6月	978-4-909658-55-5	1600円
幕末大江戸のおまわりさん―史料が語る新徴組●西脇 康	2021年10月	978-4-909658-65-4	1500円
REKIHAKU・国立歴史民俗博物館発行			
REKIHAKU 特集・されど歴史●山田慎也・内田順子・橋本雄太編	2020年10月	978-4-909658-38-8	1091円
REKIHAKU 特集・いまこそ、東アジア交流史●高田貫太・橋本雄太編	2021年2月	978-4-909658-43-2	1091円
REKIHAKU 特集・日記がひらく歴史のトビラ●三上喜孝・内田順子編	2021年6月	978-4-909658-57-9	1091円
REKIHAKU 特集・歴史のなかの疫病●福岡万里子・高田貫太編	2021年10月	978-4-909658-63-0	1091円
地方史はおもしろい・地方史研究協議会編			
日本の歴史を解きほぐす―地域資料からの探求●地方史研究協議会編	2020年4月	978-4-909658-28-9	1500円
日本の歴史を原点から探る―地域資料との出会い●地方史研究協議会編	2020年10月	978-4-909658-40-1	1500円
日本の歴史を問いかける―山形県〈庄内〉からの挑戦●地方史研究協議会編	2021年3月	978-4-909658-52-4	1500円
日本の歴史を描き直す―信越地域の歴史像●地方史研究協議会編	2021年9月	978-4-909658-61-6	1500円
その他			
中華オタク用語辞典●はちこ 3刷	2019年3月	978-4-909658-08-1	1800円
【呉公藻・馬岳梁版】太極拳講義●沈 剛・日高崇編著 2刷	2021年8月	978-4-909658-60-9	1300円
波多野華涯書簡集―門人濱口梧洞との往復書簡●岩田秀行・小田切マリ [私家版]	2019年3月	978-4-909658-11-1	品切れ